

中區 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称					実施主体					
乳幼児のむし歯ゼロ作戦					中保健センター					
事業目的		事業内容			活動指標	R2	R3	R4	R5	
中区地域計画における「それぞれに合った健康増進習慣の確立」「歯と口の健康教育の推進」をめざし、次のことに取り組む。 ○中区はむし歯を持つ乳幼児が堺市で多い区である（3歳児健康診査のデータより）。2歳頃は乳臼歯（奥歯）が生え始める大事な時期であり、このタイミングに歯科保健指導を行うことで、乳幼児のむし歯を減少、かかりつけ歯科の増加をめざす。		○1歳6か月児健康診査時に中区に住民票のある2歳児に、1歳6か月児健康診査時のむし歯菌活動性検査結果と2歳の歯科相談の案内を郵送し、積極的に受診勧奨を行う。 ○2歳時に保健センターで歯科検診と歯科保健指導を行い、その後は堺市フッ素塗布手帳を活用し地域のかかりつけ歯科につなぐ。			3歳児健康診査（3歳6か月児）のう蝕罹患患者率の減少	18.2%	14.0%	13.0%	11.1%	
					3歳児健康診査時（3歳6か月児）にかかりつけ歯科をもつ児の増加	61.0%	57.9%	56.9%	54.1%	
①妥当性		②協働の視点			③インパクト		④効率性			
◎	2歳ごろは、乳臼歯が生え始める時期でもあり、歯みがきを嫌がる時期でもある。この時期に歯科保健指導を行うことで、児のむし歯予防と保護者の歯みがきに関する困りごとを共有し保護者支援にもつなげることができた。	○	保健センターで歯科検診・歯科保健指導を実施した後は、地域の歯科医院につながり、継続したむし歯予防を地域で取り組むことができた。		○	中区は乳幼児のむし歯が多い区であることを区民が知ることで、地域でむし歯予防に取り組むきっかけとなる。		○	歯科保健指導を受けることで、家庭での毎日の歯みがき習慣の動機付けをすることができた。 他の事業と併せて行うことで、効率的に事業を行うことができた。	
⑤自立発展性		総合評価								
○	むし歯予防のみならず、歯みがき習慣やおやつを食べ方など望ましい生活習慣の獲得にもつなげることができた。また、かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科保健指導を受けることで将来の健全な歯と口の健康を保つことができる。	○	経年的に見ても、中区のう蝕罹患患者率は減少し続けている。R2年度と比較しても3年間で約7ポイント減少していることは良い結果である。また今年度より受診勧奨電話を実施したことにより、受診率が向上している。R5年度は、中8020メイト会に協力してもらい、2歳児向けにぬいぐるみを使用し歯みがきを楽しく行う、絵本の紹介を行うなどの啓発を行った。歯科衛生士だけでなく、中8020メイト会などのボランティアグループと共同して啓発を行うことによって、楽しく啓発を行うことができた。							
今後の方向性（課題、改善提案等）										
拡充 継続 見直し 廃止	う蝕罹患患者率は減少傾向で良い結果であるが、かかりつけ歯科を持つ児の割合も減少傾向であり課題であると感じる。2歳で歯科検診を受診した後に、地域の歯科医院でかかりつけ歯科をもつことの必要性を継続的に伝えていく。今年度より、受診勧奨の電話を再開したことによって受診率が13.8%増加したことから、受診勧奨の電話は来年度も引き続き継続していく。2歳時点で多数歯(4歯以上)う蝕がある児に関しては、3歳6か月児健康診査の際に更にう蝕数が増加している傾向があったので、対策を検討していく。									